

歴史と文化

陶製住吉神社扁額 (中央区民文化財)

📍 佃1-1-14



住吉神社の石造鳥居に掲出された陶器製の扁額です。縦109センチ・横97センチの額面には、有栖川宮職仁親王の染筆で「明治十五年壬戌六月三十日 住吉神社 一品職仁親王」の揮毫があり、縁には雲文や鷲(住吉神社の神紋)も描かれています。陶器問屋から寄進された珍しい扁額です。

海水館跡 (中央区民文化財)

📍 佃3-11-19先



明治38年(1905)に下宿兼割烹旅館として開業した海水館の跡地です。東京湾を臨む風光明媚な場所であったため、明治末期から大正期にかけて多くの文人たちが利用しました。島崎藤村や小山内薫なども海水館に寄附して作品を執筆しています。跡地には記念碑が立てられています。

📖 文化財 📍 記念碑

佃島渡船場跡 (中央区民文化財)

📍 佃1-11-4・湊3-18



江戸時代から昭和39年(1964)まで隅田川の兩岸を結ぶ渡し船がありました。石碑の立つ場所には、かつての佃島と対岸の船松町との間を渡る船の発着所があったところです。当地の石碑は、昭和2年(1927)に渡船場施設が完成し、無料の曳船渡船を開始した記念に建立されました。

晴海見本市会場記念碑

📍 晴海5-2-3



昭和34年(1959)から平成8年(1996)まで、国際見本市を中心に大規模なイベントが開催された場所です。晴海には複数館からなる恒久的な展示施設が立ち並び、日本を代表するコンベンション・センターとしてにぎわいました。最盛期には、年間600万人以上の来場がありました。

勝鬨橋 (国指定重要文化財)

📍 勝どき1~築地6



隅田川に架けられた日本で初めての二葉跳開橋(ちようかいりょう)です。昭和15年(1940)に竣工した当時は、東洋一の規模を誇る可動橋として1日5回の跳開運転が行われました。隅田川の上流には造船所や大型倉庫などがあったため、大型船舶の往復ができるように中央径間が「ハの字」に開く可動橋として設計されました。この橋を通過する大型船の減少や道路交通量の増加などから、昭和45年(1970)の試験閉鎖を最後に運転は停止されています。

Episode 7

歴史モノがたり

日本万国博覧会抽籤券附回数入場券 昭和13年(1938)



このチケットは、昭和15年(1940)3月に開催予定であった日本万国博覧会の前売り入場券(宝くじの抽籤券付き)です。戦前期に計画されたこの万博は、東京・月島の埋め立て地(現在の晴海地区)を主会場とする一大プロジェクトとして進められていましたが、戦争拡大のために開催が延期されてしまいました。そんな事情もあってか、未使用の旧入場券に限って大阪万博(昭和45年)や愛知万博(平成17年)でも入場券として認められました。

🔍 収藏品アーカイブズ
http://www.chuo-museum.jp